

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000310		
法人名	社会福祉法人 佐賀キリスト教事業団		
事業所名	グループホーム シオンの園川上		
所在地	佐賀県佐賀市大和町川上大字川上587-1		
自己評価作成日	平成29年10月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年11月15日	外部評価確定日	平成29年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>年間を通して、季節の花見や行事など全体のドライブを積極的に行なっている。ご自宅周辺やお客様からの希望(新聞や県の広報などをご覧になられ行きたい所)を言われたり、外食へのご案内をしている。また、お料理会やレクリエーション等も行なうなど生活の活性化に取り組んでおり、ご家族や地域の方々との交流としても敬老会をはじめ川上峡の花火大会やクリスマス会、忘年会及び家族交流会を行い多く交流を設けるように努力している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は大和インターに程近い、自然豊かな嘉瀬川沿い集落の高台に位置しており、近くには消防署や神社等が見受けられる。法人内には母体の特別養護老人ホームを始め、数か所のグループホーム、小規模多機能型事業所、通所介護施設等を有し、それぞれの機能を活かした連携が図られている。開設後10年余となる事業所は、職員の入れ替わりも少なく経験豊富な職員が多く、安心感のある落ち着いた雰囲気である。日々の暮らしでは、利用者の希望や気持ち、残存機能を重んじた支援に取り組んでおり、食事や外出、レクリエーション等でも利用者の希望を積極的に取り入れている。利用者の楽しみである外出支援には特に力を入れており、日常の散歩や買物に加え、毎月数回のドライブや季節ごとの花見、地域行事等に出かけている。また、地域交流にも積極的に取り組んでおり、敬老会やクリスマス会は地域婦人会の方々や地域のボランティアメンバーに主体となっただき催されている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・処遇モットー及び事業目的を玄関に掲示、毎月の部会において唱和することで周知を図り実践につなげている。また独自の目標(川上コンセプト)を立て実施している。	法人の理念を基に、地域密着型サービスの役割を踏まえた事業所独自のモットー「かわかみコンセプト」を職員で作成し共有している。職員の採用時には具体的に説明し、また、職員会議でも唱和するなどして実践を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	川上事業所の敬老会に地域の方々にも参加していただき、地域の区役への職員の参加や祭りなどにお連れした際には温かいおもてなしを受けている。	利用者共々近隣者とは顔馴染みで、挨拶や言葉を交わし合い、時には野菜等をいただくこともある。自治会にも加入しており、地域の清掃活動やお祭り、公民館活動等にも参加し、回覧板も利用者と一緒に次の家に届けている。事業所の敬老会やクリスマス会では地域婦人会や地域のボランティアから大きな協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として地域での出前講座を行ったり、当法人の認知症(オレンジ)カフェへの参加への案内を行っている。また、地域・事業所の行事への参加を通じて情報提供できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。行事や入退居等の状況をご報告し、ご家族様、民生委員、地域包括支援センターから情報をいただいたり、意見交換を行い、サービス向上を目指している。	運営推進会議は隣接する小規模多機能型事業所と合同で2ヶ月に1回、民生委員、家族、行政職員等の参加を得て開催しており、運営状況や行事等の報告、意見交換等がなされている。参加者からは地域の情報提供等もあり、サービスに活用している。議事録もきちんと作成されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設入居状況を報告し、受け入れ状況を把握していただいている。また情報公表を行うことにより、自施設のサービスをわかりやすいようにしている。	管理者は運営推進会議の時や行政の窓口を訪問するなどして、担当者に運営状況を伝えたり情報交換を行う等、協力関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は初任者研修や園内研修を通じて身体拘束をしないケアについて十分理解しており、方針・マニュアルもいつでも回覧可能な状態にしている。夜間の施錠の他はいかなる拘束も行っていない。	職員は研修会等を通して身体拘束の弊害や禁止行為を理解しており、拘束のない支援が行われている。玄関も日中は施錠されておらず、自由に入出入りができる。玄関に続く居間のドアには鈴が設置されており、利用者の外出気配は職員が目配り気配りで支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	初任者研修や園内研修において理解を深めるとともに、指針・マニュアルもいつでも回覧可能な状態にしている。入浴や衣類交換の際全身確認の観察を行い、現在まで虐待の事案はない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しての研修参加までは至っていないが、各職員でパンフレットや本を見て知識を得る努力をしており、必要に応じて地域包括支援センターや社会福祉士会等へ相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書等の書面に基づいて説明を行い、ご理解、同意をいただいている。また不明な点がないか確認、契約後もいつでも相談出来る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置、苦情受付の概要やオンブズマン委員会についての情報を掲示している。面会時や運営推進会議時に伺う他、毎年1回アンケートを実施、集計し利用者、ご家族の意見を反映させることで満足度の向上を図っている。	面会時や家族会、行事参加時等に繰り返し声をかけ意見や要望等を聞くように努めている。法人全体でも毎年1回、家族対象のアンケートを実施しサービスの向上を図っている。意見や要望等が出された時には速やかに検討し対処している。また、毎月、利用者の様子等を載せた「かわかみだより」を家族に届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部会や日々の業務、年2回の職員全体会議の中で得た職員の意見や提案は、会議や直接上申し反映する努力をしている。	職員は毎月の職員会議や日々の勤務の中で、積極的に意見や提案等をしており、状況に応じて反映されている。職員会議には施設長も参加し職員の声を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を用いられている。また、福利厚生にも力を入れており、職員が働きやすい環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員には園内の初任者を対象とした研修会の開催、外部への研修参加、資格取得に向けての研修等々、年間計画に沿っての機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等にて他施設見学の機会を設けており、また地域包括支援センター主催の地域ケア会議にも参加する等してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から入居に至るまで十分な情報収集を行うとともに、ご本人との面談において不安や要望を確認、安心できるようお話している。入居後は特に互いの理解や交流を図り信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際はご家族の不安や要望を確認、契約の際には情報提供や説明を行いながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	収集した情報を元に課題分析を行い、プランを策定している。経過を観察し必要に応じてプラン変更を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	経営理念及び処遇モットーに基づき職員間で情報を共有しながら、ご自分の身の周りの事は行っていただくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や受薬等は原則としてご家族にお願いし、定期的に来園いただくようにしている。状況に応じて連絡、報告を行い、ご家族の協力を依頼したり助言を求めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの際自宅の近くに立ち寄るなど、馴染みの場所に触れたり話題にする機会を提供している。またご近所の方等が面会に見えた時には案内するなど交流を援助している。	職員は利用者の馴染みの人や場所等を把握しており、知人の訪問時には湯茶を供し、ゆっくりと過ごしてもらえるように配慮している。また、馴染みの美容室や神社、温泉、商店等と一緒に出かけたり、ドライブの折には自宅側を通る等、馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の個性や関係性を把握し、居場所や席の配置にも配慮している。また状況に応じて交流の橋渡しを行っている。ご利用者同士和気あいあいに歌やお話を楽しまれたり、助け合われたりの場面も多く見られている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退居された場合もお見舞いし、失礼のないよう配慮しながらご様子などを伺う様に努め、状態に応じては施設や居宅介護支援事業所等へ相談するようにしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の交流、会話の中でご本人の希望や意向を把握するように努めている。ご本人との意思疎通が困難な場合も、生い立ちや嗜好、ご家族の希望も考慮しながら、より快適に過ごしていただけるよう検討している。	日々の会話の中で一人ひとりの意向や希望等を把握している。意思の疎通が困難な場合には、表情や家族の情報等から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集やご本人、ご家族との会話の中で生活歴や家族構成、サービス利用状況などを把握できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の心身状態や有する能力については、ミーティング、業務チェック表、連絡ノート、毎月の部会でのケース検討において情報が共有され、職員全員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部会等で定期的にケース検討を行い、そこでの意見やご本人、ご家族からの要望、課題分析をプランに反映させるよう努めている。	本人・家族の希望や意向等を確認して、職員で話し合い、本人本位の介護計画を作成している。3ヶ月ごとの評価と定期的な見直しを行っている。なお、利用者の状態に変化が生じた時には速やかに介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化については業務チェック表、健康管理表や連絡ノートに記入し、健康管理表には1ヶ月まとめ記入。新しく実施する内容は連絡ノートにて周知を図り、必要に応じてプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族より要望があった際には可能な範囲で対応するように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、消防訓練などを行い安全の確保を保っている。地域の行事や外出の際にも地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時に協力医療機関について説明、希望者は主治医を変更されるが、基本的にはかかりつけ医を主治医にされている。その際は家族を通じ情報交換を図る。必要と思われるときは受診を勧めたり受診等を援助している。	以前からのかかりつけ医の受診が継続されており、基本的に通院は家族の付き添いであるが、状況によっては職員も同行し、適切な診療が受けられるように支援している。事業所は医療機関と良好な関係を構築しており、夜間の受診体制も確保している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤で看護職員を配置、必要時応じて相談、連携を図っており、緊急時には連絡できるようになっている。ご家族での対応が困難な場合は看護職員や介護職員により受診、受薬も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、ご本人の情報を速やかに伝達できるよう努めている。入院後は数日たってお見舞いし状態把握に努めている。退院時にはサマリーを作成していただいたり留意点を確認、把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針及び看取りに関する指針について契約時に説明を行っている。ご希望の際には、どのようなケアを望まれているか、何ができるのかを確認し職員間で共有している。また、かかりつけ医への報告を行い連携の強化を図っている。	契約時に「重度化や看取りに関する指針」を説明している。重度化や看取りの支援を要する時には、本人・家族の希望や意向を尊重し、主治医を始め関係者と連携し事業所ができる最大限の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制、マニュアルを作成、常備しており、日中、夜間とも急変時に対応できるようにしている。救急蘇生法等の研修も受講し介護職として行える医療行為も学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所にて年に2回以上防災訓練を実施している。夜間火災時には地域の消防団の方が応援して下さる事になっており連絡簿にも記載している。	法人母体での災害対策訓練に加え、事業所独自でも年2回以上、昼夜の火災を想定した通報・避難等の訓練を実施しており、地区の消防団員宅には非常通報装置を設置させてもらっている。しかし、今のところ近隣住民の訓練への参加協力を得るまでには至っていない。地震災害に対しては、法人母体で物資の備蓄及び企業と連携した食料確保等の準備をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重する言葉遣いをするように努め、排泄や入浴の介助の際には特にプライバシーに配慮、対応している。	職員は利用者一人ひとりを尊重し、節度ある声掛けと対応をしている。歩行介助時には、優しく声を掛けさりげなく手を差し伸べる様子も見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で食べたいものや出かけたいところ、したい事等を伺っている。自発的なご希望については出来るだけ対応し、自己決定の尊重を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示できる方にはできるだけその意思に沿っているが、レクリエーションへの参加や離床を勧めることもある。意思表示の困難な方には状態や表情等を観察しながらその方の状況に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選んでいただいたり、介助が必要な方には季節や行事等に合った服を着ていただいている。洗面後等、鏡を見ながらご自分で整容していただき、おしゃれを意識されるよう援助している。自分用の化粧水を使用される方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの注ぎ分けや台拭き、片付けや食器洗い等、ご利用者様の状況を踏まえたうえで意思を確認しながらお願いしている。昼食は職員も一緒に食卓でいただき、会話も楽しんでいる。	献立には利用者の希望も取り入れて、買い物と一緒にいくこともある。また、利用者の力量に合わせて盛り付けや台拭き、後片付け等を一緒に行っている。昼食は法人母体の厨房で作られたものを、職員も一緒に楽しい雰囲気の中で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した食事提供をこころがけている。献立、食材の記録と写真を毎月提出、栄養士のコメントをもらっている。必要時は栄養士に相談している。水分は随時提供、食事摂取量も確認し記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行える方には言葉かけを行い、介助が必要な方にはできないところを援助し、毎食後口腔ケアをしていただいている。入れ歯の方は夜間お預かりし、洗浄剤に浸し洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。布パンツの方はその日の体調によってパッドや紙パンツを使用するなど柔軟に対応している。自尊心やプライバシーに考慮しながら排泄を勧めるようにしている。	一人ひとりの排泄パターンや仕草等から誘導し、昼間は全員をトイレでの排泄で支援している。誘導時には静かに声を掛け、さり気なく介助している。下着も一人ひとりの状態に合わせて準備している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を使用した飲み物や野菜や根菜類を多く取り入れた食事を提供しているが、慢性便秘の方は内服の処方を受けていただいている。必要な方については排泄チェック表にて排便の有無を確認し、状態に応じて対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴については個々の希望を伺ったり、タイミングを考慮して実施している。また入浴中は会話によりリラックスできるよう援助している。	利用者の気持ちに配慮しながら、1日置きの入浴を支援している。入浴を希望されない時には、無理強いせず、入浴剤を使用したり、言葉掛を工夫する等して入浴を楽しんでもらえるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やご様子に応じて静養を勧めたり、室温や照明にも配慮し1人ひとりに応じた支援に努めている。自力で体位交換のできない方には定期的に援助を行い安楽な姿勢で休まれる様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は服薬受け取り表とともに個人ファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。処方変更のある際には連絡ノートや業務チェック表に記録し周知を図るとともに様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や昔の活動、嗜好品等の情報を収集し、できるだけ継続できるよう支援している。お話し会や歌会、外出等気分転換や楽しみ事を提供。また、能力に応じて生活活動の役割の提供を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体では季節ごとお花見などのドライブを実施。また個々の方も希望される時には外出で外食を楽しまれる方もおられる。	利用者の楽しみである外出支援は、事業所が特に力を入れている点であり、利用者のリクエストも取り入れながら、日常の散歩や買物を始め、毎月数回、季節ごとの花見や地域の行事等に出掛けている。また、墓参りなどの個別の外出は、家族の協力を得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力やご希望に応じて外出時に買い物の援助を行っている。安心感から少額の金銭を所持している方もいらっしゃるがほぼ使っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の際にはご家族様の状況を考慮しながら電話等の対応を行っている。またご家族より電話、要望があればご本人様におつなぎしている。遠方のご家族様へのお手紙、年賀状や(絵手紙教室)の絵手紙を使って書いていただくなどの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃や室・温度は手順書に基づき、管理、環境整備管理表等においてチェックを行っている。また季節の花を飾ったり観葉植物を置くなど、居心地の良い空間となるよう努めている。	日当たりの良いゆったりとした広さのある居間兼食堂には、家庭的な雰囲気の家具や調度、季節の花等が置かれ、差し込む日差しもカーテンで調節されており、窓辺に置かれた丸テーブルが利用者の和みの場になっている。2箇所トイレも分かりやすい場所にあり、自立された利用者は一人で行かれている。また、居間に続くウッドデッキには自由に入出りができ、外気浴や周りの木々の季節ごとの移ろいが楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には食卓テーブルとテレビ前のテーブル、ソファがあり、お好きなところで過ごされる。窓際やウッドデッキで庭の景色を楽しまれる方もおられる。楽しい雰囲気作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく落ち着いて過ごせるよう入居時に愛用の家具や寝具等の持参を勧めている。また、小物やご家族の写真等をかざられたり個性が見られている。	職員は家族に利用者の使い慣れた馴染みの品の持ち込を勧め、居心地の良い居室作りを支援している。家族の写真や本棚、賞状、筆筒、日用品、壁飾り等が見受けられる。また、各居室に温湿度計を設置して部屋の空調管理を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建設時からバリアフリーになっており、床はクッション性のある素材を使用し安全に努めている。建設の構造はシンプルでわかりやすくご自身での移動もしやすくなっている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない